



今こそ、北海道を 新しい時代の地域モデルに

（財）北海道開発協会会長 小林好宏

新年明けましておめでとうございます。皆さまには希望に満ちた健やかな新年を迎えられましたことと、お慶び申し上げます。

昨年は、引き続き世界的な不況の影響によるデフレの進行、円高、雇用環境の悪化に加え、新型インフルエンザの流行など、わが国が厳しい社会経済状況に直面する中、変革への期待を担い、戦後初の本格的な政権交代による鳩山連立内閣が発足しました。

鳩山新政権の予算編成にかかわる政府・行政刷新会議ワーキンググループの事業仕分けでは、「コンクリートから人へ」の号令のもとで、公共事業の大幅な削減や事業見直しが進められ、「北海道開発局の歴史的役割は終わったのでは」との議論までもなされました。

しかし私は逆に、本当に「北海道開発の役割は終わったのか」と問いたいのです。

新政権が言うまでもなく、まさにわが国は今、グローバル化、地球温暖化、人口減少と少子高齢化という大きな環境変化の下でさまざまな課題に直面しており、真の意味で豊かな、国民が生きがいを持って過ごせる安心で平和な社会を築くための大きな変革の時期を迎えています。

一昨年に策定された第7期目になる新たな北海道総合開発計画では、「わが国経済社会が大きな転換期を迎え、国民の間に将来への不安や閉塞感が増している

今こそ、北海道は、新たな時代の先駆者としてフロンティア精神を発揮し、豊かな経済社会づくりのための先駆的・実験的な取組に挑戦していく」としています。

私は、北海道の果たすべき役割として大きくは二つあると思います。一つは、自然と共生する持続可能な社会として、脱工業化社会といわれる21世紀の先進国の望ましいモデルを作り上げる実験の場所としての役割。もう一つは、日本の最大の弱点である食料とエネルギーの供給・備蓄を担うという安全保障の役割です。

北海道はこれまで幕末から明治、戦後と二度にわたり、日本が困難な時期に大きく注目を浴びてきましたが、日本が前述のような危機的状況にある今こそ、まさに北海道に求められている役割を果たすべき三度目の重要な時期であると考えています。

当協会におきましても、公益法人として、北海道開発の意義と重要性を改めて広く社会にアピールする役割を果たすとともに、北海道を活力ある、それぞれの思いを実現できる場としていくために努力していきたいと考えています。

年頭に当たり、本年が北海道の新しい時代を開く、果敢な挑戦の年となるとともに、皆様方にとって安心して暮らせるころ豊かな年となりますことを祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。